

令和7年度教育課程研究集会

小学校 生活科部会

令和7年7月24日
徳島県教育委員会

本日の日程

○13:30～14:40 インTRODクシヨ、部会Ⅰ
説明、協議

協議①体験活動と表現活動の相互作用による
深い学びの実現

○14:40～14:50 休憩

○14:50～15:40 部会Ⅱ
説明、協議

協議②幼児教育と小学校教育の
円滑な接続の推進

○15:40～16:00 リフレクシヨ、閉会

イントロダクション

生活科の学習で、
あなたが大切にしていることは？

生活科における 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

授業改善の三つの視点

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



主体的な学び

対話的な学び

深い学び



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



習得・活用・探究という**学びの過程**の中で、
各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、
知識を相互に関連付けてより深く理解したり、
情報を精査して考えを形成したり、
問題を見いだして解決策を考えたり、
思いや考えを基に創造したり
することに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

①思いや願いをもつ

②活動や体験をする

④行為する・表現する
(伝え合う・振り返る)

③感じる・考える

「**身近な生活に関わる見方・考え方**」
身近な人々，社会及び自然を自分と
の関わりで捉え，よりよい生活に向け
て思いや願いを実現しようとする事

(p.15)自分自身や自分の生活について考え，表現することにより，**気付きの質**が高まり，**対象が意味付けられ**たり**価値付けられ**たりするならば，身近な人々，社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「**深い学び**」の実現こそが求められるのである。

(p.77)**気付きの質**の高まりは，満足感，成就感，自信，やり甲斐，一体感などの手応えとなり，次の体験への**安定的で持続的な意欲につながっていくことになる**。生活科においては，**気付きの質**の高まりが**深い学び**であると捉えることができる

(p.94)「**身近な生活に関わる見方・考え方**」を生かした学習活動が充実することで，**気付いたことを基に考え，新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなどの深い学び**を実現するようにする。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを，自分自身の実感の伴った言葉にして表したり，様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことが大切である。

深い学びと気づきの質

生活科における
深い学び



気づきの質の高まり

気付きとは

気付きとは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには知的な側面だけではなく、情意的な側面も含まれる。また、気付きは次の自発的な活動を誘発するものとなる。

(小学校学習指導要領解説生活編 P.69)

その1

気付きは、対象に対する一人一人の認識である

その2

気付きは、児童の主体的な活動によって生まれるものである

その3

気付きは、知的な側面と情意的な側面がある

その4

気付きは、次の自発的な活動を誘発する

生活科の学びの過程

解説総則編と生活編における「深い学び」を照合する

総則編

習得・活用・探究という**学びの過程**の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、**知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したり**することに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

①思いや願いをもつ

②活動や体験をする

④行為する・表現する
(伝え合う・振り返る)

③感じる・考える

「**身近な生活に関わる見方・考え方**」
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする

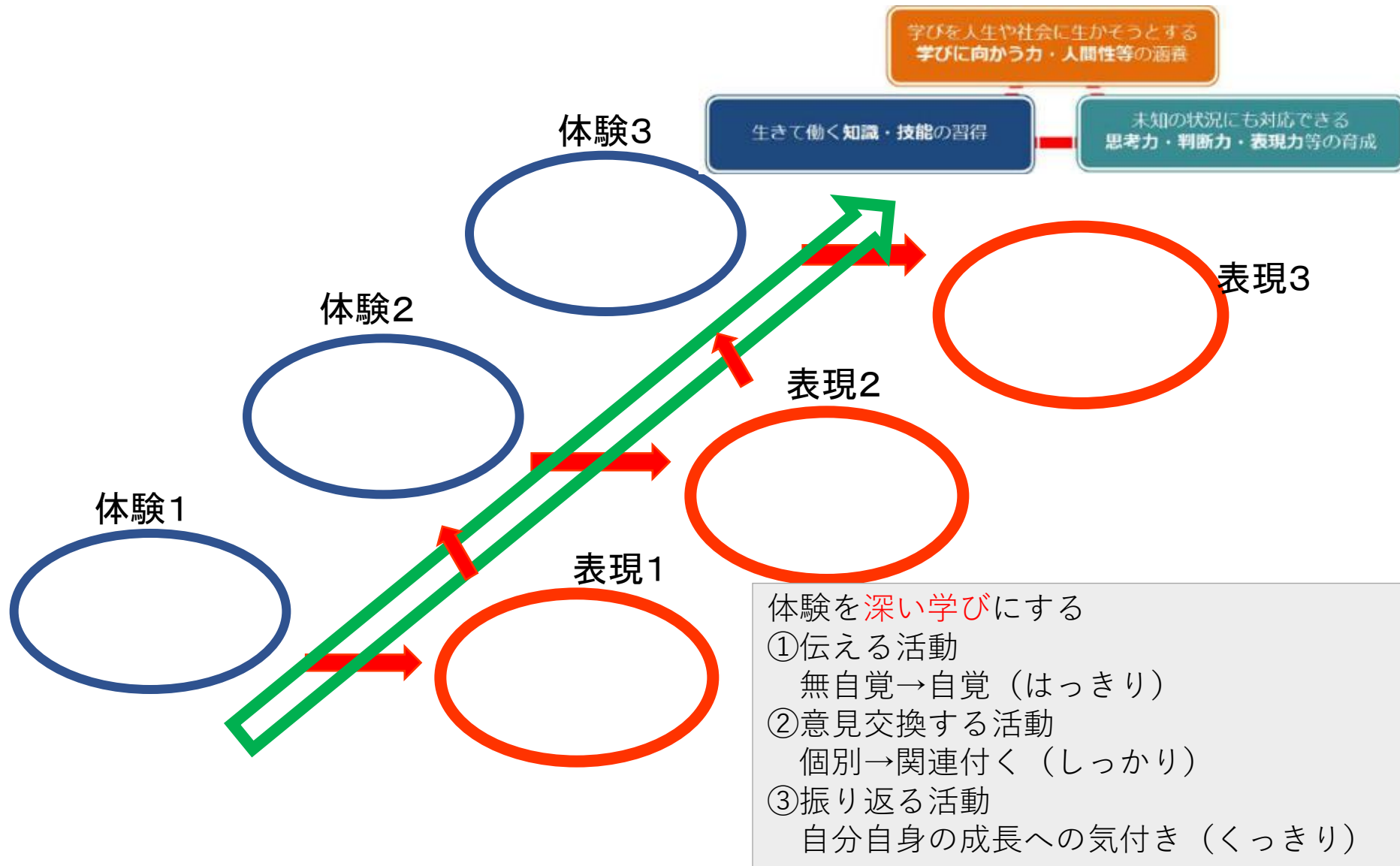
生活編

(p.15)自分自身や自分の生活について考え、表現することにより、**気付きの質**が高まり、**対象が意味付けられたり価値付けられたりする**ならば、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「**深い学び**」の実現こそが求められるのである。

(p.77)**気付きの質**の高まりは、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などの手応えとなり、次の体験への**安定的で持続的な意欲につながっていく**ことになる。生活科においては、**気付きの質**の高まりが**深い学び**であると捉えることができる

(p.94)「**身近な生活に関わる見方・考え方**」を生かした学習活動が充実することで、**気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得する**などの**深い学び**を実現するようにする。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことが大切である。

「深い学び」を実現するイメージ



グループ協議①

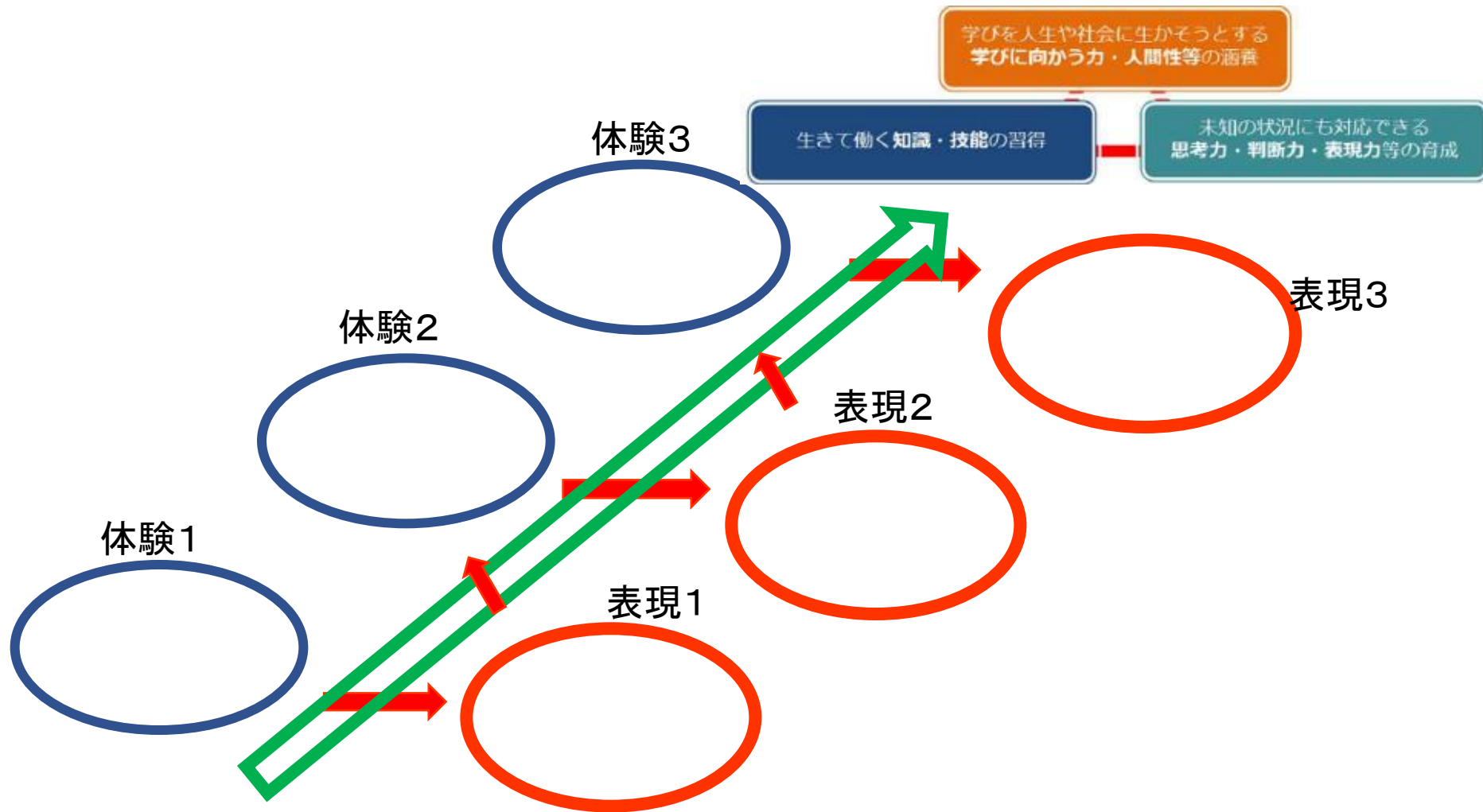
体験活動と表現活動の相互作用による 深い学びについて

(1) 各校での実践について

(2) 今後、体験活動と表現活動の
相互作用による深い学びを進めるに
あたっての工夫や配慮

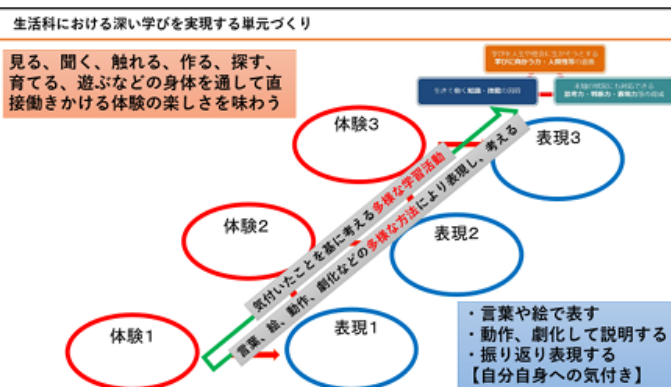
- ・司会は番号が2番目に若い方。
- ・発表は番号が3番目に若い方。
 - ・全体共有での発表は2分間
(お声かけしたグループのみ)

体験活動と表現活動のバランス



初等教育資料 2025年4月号・特集1 「生活科の学習過程を踏まえた授業づくりのポイント」

子供の実態
学校・地域の特色



- 見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして対象に**直接働きかける**
- 楽しさや気付いたことを言葉、絵、動作、劇化などの**多様な方法で表現する**

低学年の発達特性から、**対象と直接関わり、対象とやり取りする**単元の中で、資質・能力が育成される

低学年の発達特性とは

- ① 人、社会、自然を**一体的**に認識し、**自分との関わり**を意識する
- ② 活動や体験を通して、**身体全体**で感じたり考えたりしながら学ぶ
- ③ 空間的な認識、時間的な認識、習慣や技能の**差が大きい**
- ④ **協働**的な学習活動ができるようになる
- ⑤ 知的な発達や行動力の**伸長が目覚ましい**

スタートカリキュラム

生活科改訂の趣旨及び要点

生活科改訂の趣旨及び要点（解説生活編P5、6）

中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科等における改訂の具体的な方向性も示された。今回の生活科の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。

生活科は、**児童の生活圏を学習の対象や場**とし、それらと**直接関わる活動や体験を重視**し、具体的な活動や体験の中で**様々な気付き**を得て、**自立への基礎を養う**ことをねらいにしてきた。平成20年改訂の学習指導要領では、**活動や体験を一層重視**するとともに、**気付きの質を高めること**、**幼児期の教育との連携**を図ることなどについて充実を図った。

その**成果**として、各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映されているものと考えることができる。

一方で、**更なる充実**を図ることが期待されることとして以下の点が示された。

- 活動や体験を行うことで**低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動**を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- 幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する**低学年教育として滑らかに連続、発展させること**。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこの生活科の役割を考える必要がある。
- 幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、**学校全体で取り組むスタートカリキュラム**とすることが必要である。
- 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする**中学年の各教科等への接続を明確にすること**。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

生活科の本質

生活科の充実



成果

生活科の更なる充実

低学年らしい思考や認識、
次の活動へつなげる

低学年教育の充実

学校全体で取り組む
スタートカリキュラム

社会科や理科、総合への
接続を明確にする

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（生活科）－質問調査版－

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化した。
- 入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示した。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現する生活科の特質を踏まえた授業の質問への肯定的な回答は95%を上回っており、着実に実施されている。
- 幼稚園や保育所等と連携しながらスタートカリキュラムの作成を行うことは、前回調査の類似質問の結果と比べて改善傾向がみられるが、他の質問と比較して肯定的な回答は61.6%と低い傾向にある。
- 他教科等との関連を図った授業や中学年の各教科等への接続を意識した授業に関する質問への肯定的な回答は85%を上回っているが、「そうしている」という回答は30%を下回っており他の質問と比較して低い傾向にある。
- 児童の興味・関心を生かして資質・能力を身に付ける授業が展開されている傾向が見られるが、「生活や出来事の伝え合い」においては、児童の興味・関心、児童の身に付けやすさ、共に80%を下回っている。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・スタートカリキュラムの充実を引き続き促すとともに、低学年における教育課程全体を充実するために、生活科と他教科等との関連を積極的に図るとともに、中学年以降の教育への接続を意識することが必要である。
 - ・「生活や出来事の伝え合い」の指導では、他者と進んで触れ合い、継続的に交流する学習活動を充実させることが必要である。

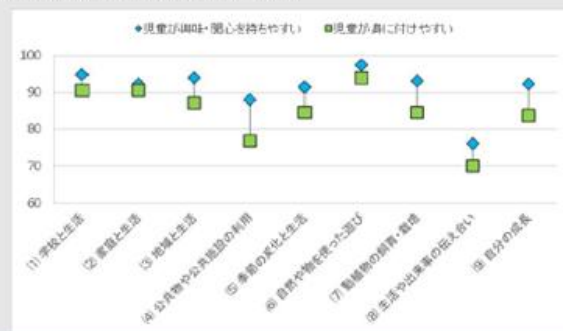
4. 調査結果例（オンライン質問調査 小学校/教師）

スタートカリキュラム作成にあたって、幼稚園・認定こども園・保育所と連携し、接続を意識しながらカリキュラムの作成を行っている。

※H24の類似質問「スタートカリキュラム作成にあたって、幼稚園や保育園と連携協力しながらカリキュラムの作成を行っていますか」との比較。

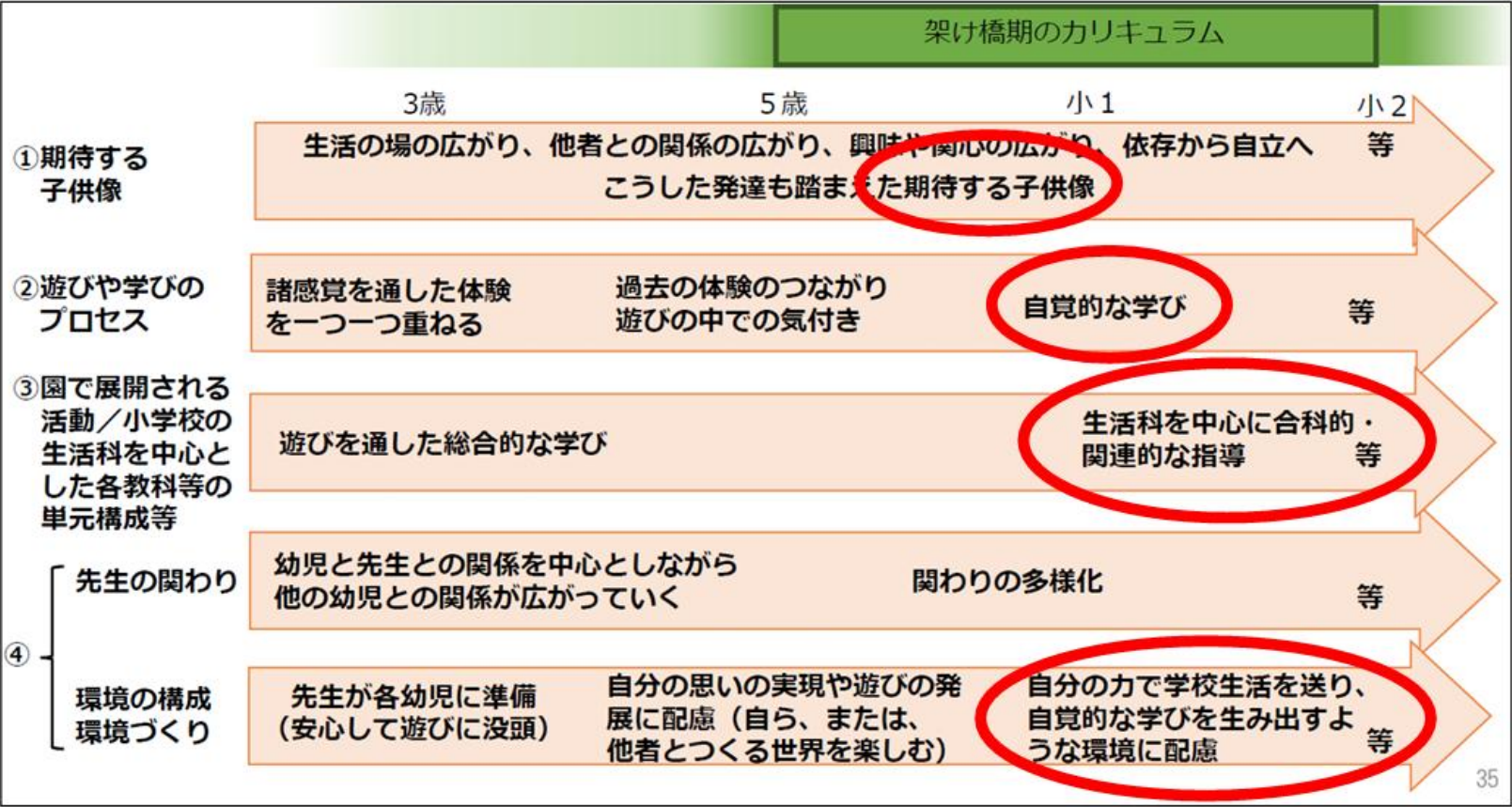


各内容に対する教師の意識



スタートカリキュラムの改善傾向と課題

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）



期待する子供像を共有し、自覚的な学びとなるような単元構成と環境づくりを行う

第1ステージ
やらないと困る

平成20年改訂（学習指導要領解説生活編）
小1プロブレム → 「**学校生活への適応**」

第2ステージ
やった方がよい



平成27年頃（スタートカリキュラムスタートブック）
安心・成長・自立 → **幼児期の活動を取り入れる**
ゼロからのスタートじゃない
週案・環境構成・マネジメント

第3ステージ
やらなければならない



平成29年改訂（学習指導要領）（実践の手引き）
低学年教育の充実 → 学校段階等間の接続
教科等間の関連
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
（10の姿）

スタートカリキュラムをアップデートしましょう

計画（編成）

- 合科的・関連的な指導の工夫 【生活科は結節点】
- 弾力的な時間割の設定 【生活リズム、1日の過ごし方】
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の活用 【10の姿】

実施

- 安心して過ごし学べる学習環境 【空間的・人的支援】
- 本、身近材、遊び道具などの利用しやすさ 【物的支援】
- 自立心を育む掲示物の活用 【視覚的效果】

評価・改善

- 入学当初の活動の意図を明確にして見直す 【意識改革】
- 教職員、他学年児童の豊かな関わり 【チーム学校】
- 学年会などの情報交換会 【時間の確保と見える化】

協力体制・研修・理解促進

- 近隣の幼稚園、幼児教育センター等による助言 【連携】
- 教員研修 【保育参観、合同研修、学校訪問指導】
- 指導資料、実践事例集の作成と活用 【最新情報】
- 入学説明会等（保護者資料）での理解促進 【CS】



協力体制・研修・
理解促進





進
展
学
年
学
期

ゼロからのスタートじゃない!

子供は幼児期にたっぷりと学んできています

幼児期 学びの芽生え

- 楽しいことや好きなことに集中することを試して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、関心も体も動かし様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。



幼児教育

- 5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程等
- 子供の生活リズムに合わせた1日の流れ
- 身の回りの「もののこと」が教材
- 総合的に学ぶために工夫された環境の構成 など

児童期 自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休養の時間等）の区別が行き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、黙したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。



小学校教育

- 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- 学期制に沿った1日の流れ
- 教科書が主たる教材
- 系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

スタートカリキュラム

自立

成長

安心

「ゼロからのスタートじゃない!」を合い言葉にして、幼児期における学びの芽生えと、児童期における自覚的な学びをつないでいく。幼児教育と小学校教育の段差を越えていくことも、成長・自立につながる。決して、段差を取り除くことでは

園ではこんな
ことやってた

こんなふうに
したい

こんなとき
どうするんだろう

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編纂

遊びを通しての総合的な学び(幼児期)

より自覚的な学び(児童期)

(1) 幼児の発達や学びを理解する

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる
- ・幼児の発達や学びの姿を把握する

(2) 期待する児童の姿を共有する

- ・スタートカリキュラムで期待する児童の姿を明らかにする
- ・実施期間を検討する

スタートカリキュラムをデザイン

- (1)期待する子供の姿を共有する
- (2)合科的・関連的な指導の工夫
- (3)弾力的な時間割の設定

(3) 各学校のスタートカリキュラムをデザインする

① 単元の構成と配列 期待する児童の姿に 適合した単元を構成し 配列する

スタートカリキュラムとして 大切なこと

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う

全ての単元を配列し、
俯瞰することができる
単元配列表を作成する

② 週の計画と時間配分 単元計画に基づいた 学習活動を週の計画 として時間配分する

スタートカリキュラムとして 大切なこと

児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う

実践に向けて具体化
するために週案を作成
する

第1学年 単元配列表(例)

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	あいいうえおであそぼう				
算数	いちばんせい	よろしくね	はるのあき	あつきたよ	こたばのひめつ
生活	なかなまづくりとかず	くらべよう	10までのかず	なんばんの	いくつといくつ
音楽	がっこうだいすき みんななかよし				
図画工作	すきなもののしりとり	とろろマーク	みんなことあつたよ	えんどうであそぼう	すなやちとあそぼう
体育	からだほやし	ゆうであそび	あにあそび		
道徳	げんごにあいさつ	みんなてつうもの	ともだちとなかよく	いさものとなかよし	
特別活動	入学式	1年生を迎える会			

スタートカリキュラム第2週の週案(例)

	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
期	「なまよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・歌を聴いて ・歌って踊ろう	「なまよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・歌を聴いて ・歌って踊ろう	「なまよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・歌を聴いて ・歌って踊ろう	「なまよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・歌を聴いて ・歌って踊ろう	「なまよくなろう」※ ・手遊び ・お話を聞いて ・歌を聴いて ・歌って踊ろう
ポイント1	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・自己紹介しよう ・学校のはてなを ・びくびくを長けよう (1)(2)	「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)	「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・読みで遊ぼう (国1)	「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)
ポイント2	「くらべよう」 ・数あはれよう (算1)	「はるのあき」 ・リズムに合わせて 踊ろう(国1)	「10までのかず」 ・歌を聴いて ・歌って踊ろう (算1)	「えんどうであそぼう」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)
ポイント3	「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)
教科等を中心とした学習活動	「なまよくなろう」 ・みんなでおどろく 前奏を奏しよう			「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)	「あいいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国1)
ポイント4	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)	「はるのあき」 ・読みで遊ぼう (国1)

※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

(1) 健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	(6) 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにようになる。
(2) 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	(7) 自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることができるようになる。
(3) 協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。	(9) 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
(5) 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えながら関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。	(10) 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

弾力的な時間割の設定

週案の作成・実施

週の目標

今日の目標

業前活動で、園の遊びや歌を取り入れ、安心して楽しく始められるようにする

短い時間の組合せ
(国語2/3,算数1/3)
2時間続きの学習

スタートカリキュラム第2週の週案 (例)

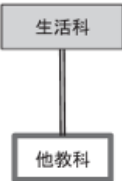
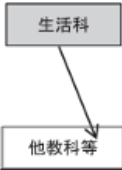
	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント1	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント2	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
生活科を中心とした学習活動	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント3	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
教科等を 中心とした 学習活動	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント4	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
5	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて
ポイント5	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて	「ななこ」 ・お話を聞いて ・お話を聞いて ・お話を聞いて

※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

生活科を中心とした
合科的・関連的な指導の工夫
(学校探検→算数)
(学校探検→図工)

合科的・関連的な指導の工夫

指導計画の作成(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果性を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにする（以下略）

	捉え方	タイプ（例）	スタートカリキュラムにおける具体例
合科的な指導	各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの	【合科】 	生活科の学校探検で気付いたことなどを言葉で表現したり、友達と伝え合ったりする学習活動において、国語科の資質・能力「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどをくふうすること」について指導することで、より効果的にねらいの実現を図る
関連的な指導	教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの	【関連 A】 	生活科で春の自然を観察したり、自然のもので遊んだりする体験が、音楽科で春の歌の曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことに生かされるように関連を意識して指導する
		【関連 B】 	算数科で育成する、ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることや、個数の順番を正しく数えたり表したりする知識及び技能が、生活科の学校探検で見付けたものを数える際に生かされるように関連を意識して指導する

『発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム』（平成30年文部科学省、国立教育政策研究所）

合科的・関連的な指導の工夫

図画工作科 図画工作科の活動で扱い慣れた土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類などの材料や用具は、**生活科での遊びや遊びに使うものを工夫してつくる活動に生かされる。**

体育科 カタツムリ、ダンゴムシ、バッタ、カマキリなどの生き物をつかまえたり育てたりして生き物に触れ、様子や動きを観察した経験が、身近な題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊るといった表現遊びのきっかけになる。

国語科 **生活科における豊かな体験を、国語科における、報告する文章や記録する文章などを書く言語活動、日記や手紙などを書く言語活動などの題材として活用することは、表現することへの有効な動機付けとなる。**

音楽科 **身近な自然を観察したり身の回りのものを使って遊んだりする体験が、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ることなどに発展する可能性をもっている。**

幼児教育と小学校教育の 架け橋プログラム

小学校35人学級における多様性

特異な才能のある子供

0.8人
(2.3%) ※1

学習面又は行動面で
著しい困難を示す子供

3.6人
(10.4%) ※2

不登校

0.7人
(2.1%) ※3

不登校
傾向

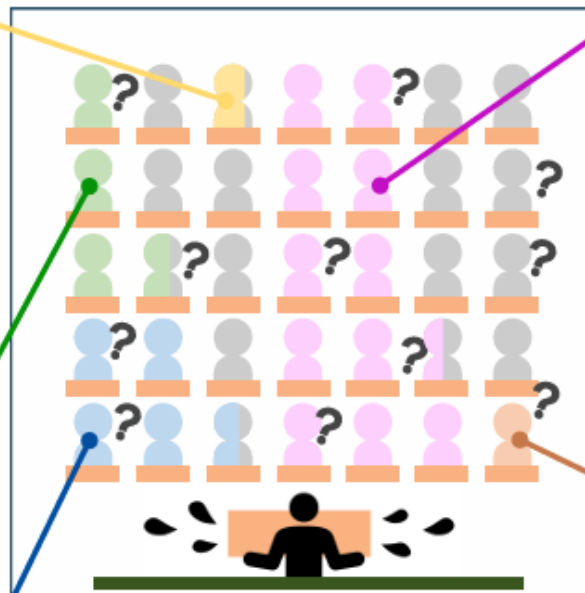
4.1人
(11.8%) ※4

家にある本の冊数が
少なく学力の低い
傾向が見られる子供

12.5人
(35.6%) ※5

日本語を家で
あまり話さない子供

1.0人
(2.9%) ※6



【出典】内閣府 総合科学技術・イノベーション会議『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』をベースに更新

- ※1 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートを参考に編集。
- ※2 文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年）」
- ※3 文部科学省「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」
- ※4 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」
- ※5 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」
- ※6 文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度全国学力・学習状況調査」

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ **新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要**
- ◆ **GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要**
- ◆ **その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む**

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

個別最適な学習の原理、 それは幼児教育でいう「環境による教育」

幼児教育では、原則教えないで、**環境を整えます**。あとは子どもを見て、子どもだけでやれることと子どもだけではやれないことを見据えます。そして、子どもだけでできないことに関して、子どもだけでできるような後押しをするのです。

幼児教育あるいは**特別支援教育**というのは、**環境を整えて、一人一人を丁寧に見て、その子が本当に必要なところだけを支える教育**です。要するに、個別最適な学びの原理や目指す姿はそういったところにあると思うのです。

ヒントは
幼児教育にある！



【奈須正裕先生インタビュー】「有能な学び手」としての子どもを信じる【「個別最適な学び」の核心に迫る～ひとりひとりに向き合う教育のこれから～】五月祭教育フォーラム2023 EDUPEDIA 2023.7.25 <https://edupedia.jp/archives/32162>

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会における審議経過報告 令和4年4月5日【資料公開】
幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き及び参考資料の初版（案）について（報告）

現状の課題を踏まえた幼保小の架け橋プログラムのねらい

【幼保小連携の成果と課題】

【成果】

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- ・幼保小接続期の連携の手掛かりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- ・小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展

【課題】

- ・幼稚園・保育所・認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識、各園・小学校における連携の必要性に関する意識の差
- ・半数以上の園が行事の交流等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤解され、連携の手掛かりとして十分機能していない
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定され、理念が共通していない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- ・小学校側の取組が、教育方法の改善に踏み込まず学校探検等にとどまるケースが多い
- ・施設類型の違いを越えた共通性が見えにくい
- ・教育の質に関するデータに基づき幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い

→接続期の学びや生活の基盤の育成に大きな影響

【架け橋プログラムのねらい】

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進

連携への意識改革 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方
資質・能力をつなぐ ことができる手立てを
普及

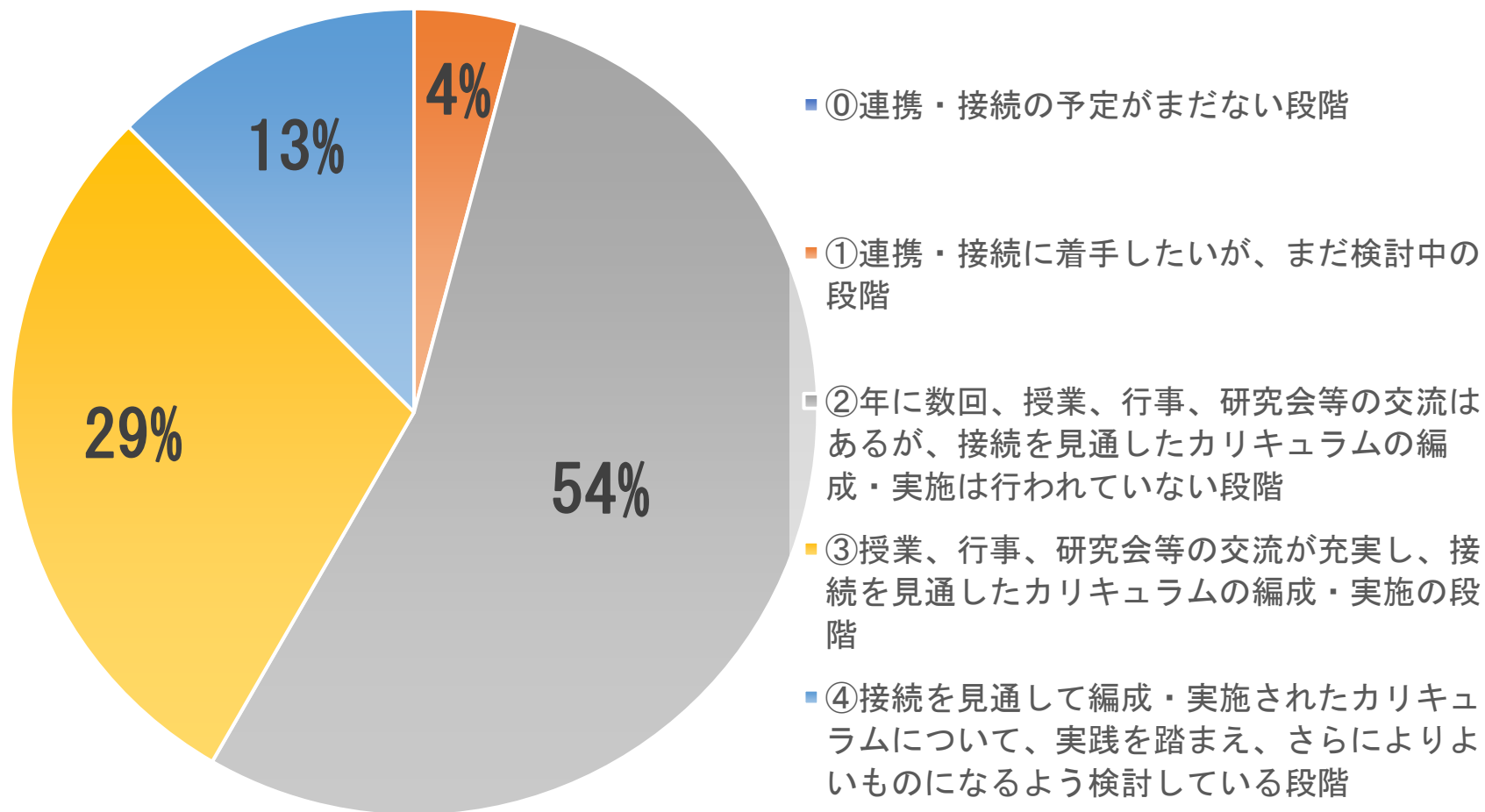
10の姿の理解と活用 している環境の構成や
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解や
理念の共有 に関する工夫が見える化し、
にも普及

スタートカリキュラムの改善 ための枠組
みを構築し、データに基づくカリキュラム・教
育方法の改善を促進

幼児教育施設との連携・接続の段階

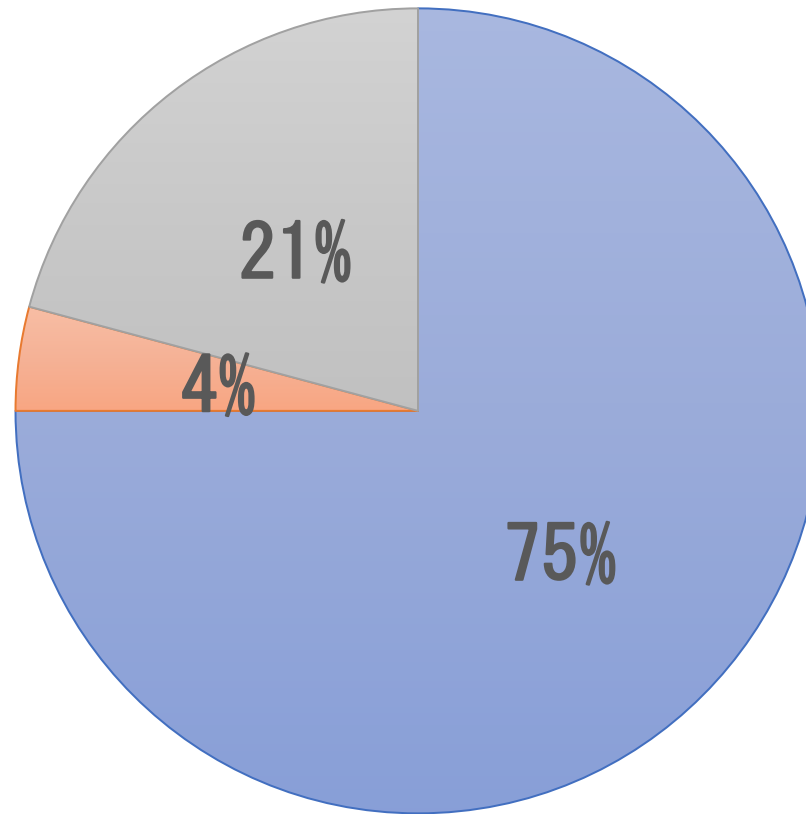
令和7年度教育課程研究集会（小学校生活）事前アンケートより

7 幼児教育施設との連携・接続の段階



幼児教育施設との連携・接続の進み具合について

令和7年度教育課程研究集会（小学校教育生活）事前アンケートより



■①進んでいる ■②進んでいない ■③どちらともいえない

「幼保小の架け橋プログラム」の推進について

幼保小の架け橋プログラム

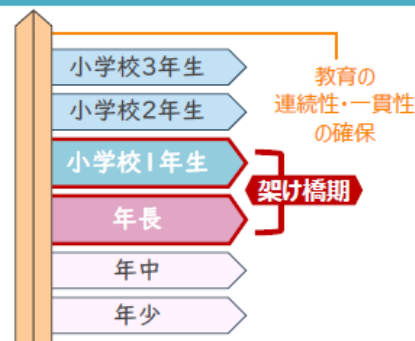
幼保小の架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図るため、0歳から18歳の発達や学びの連続性を踏まえ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携・協働して、カリキュラム・教育方法の充実・改善を促進し、域内の全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す取組。

※文部科学省において、令和4年3月に、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」と「参考資料(初版)」を作成

架け橋期のカリキュラム

幼保小の先生が、共通の視点を持ちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成する架け橋期(5歳児から小学校1年生までの2年間)のカリキュラム。

【参考】
幼保小の架け橋プログラムの
実施に向けての手引き(初版)
等



地域における体制のイメージ

自治体における取組

地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

架け橋期のカリキュラム開発会議

構成員

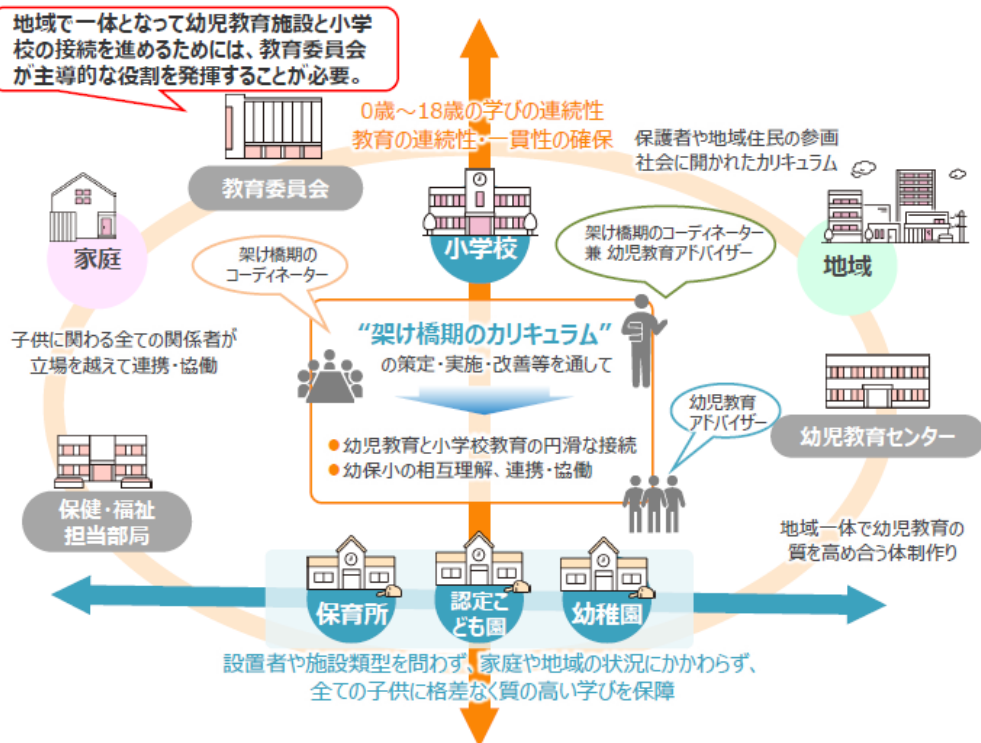
- 幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
- 教育委員会、子育て担当部局
- 教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
- 幼保小の関係団体・保護者や地域の関係者
- 架け橋期のコーディネーター、幼児教育アドバイザー、有識者 等

取組内容

- 架け橋期のカリキュラムの開発
- カリキュラムの実施に必要な研修
- 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
- 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼保小の円滑な接続に向けた助言を行う架け橋期のコーディネーター等の派遣など、持続的・発展的に実施する組織体制の構築

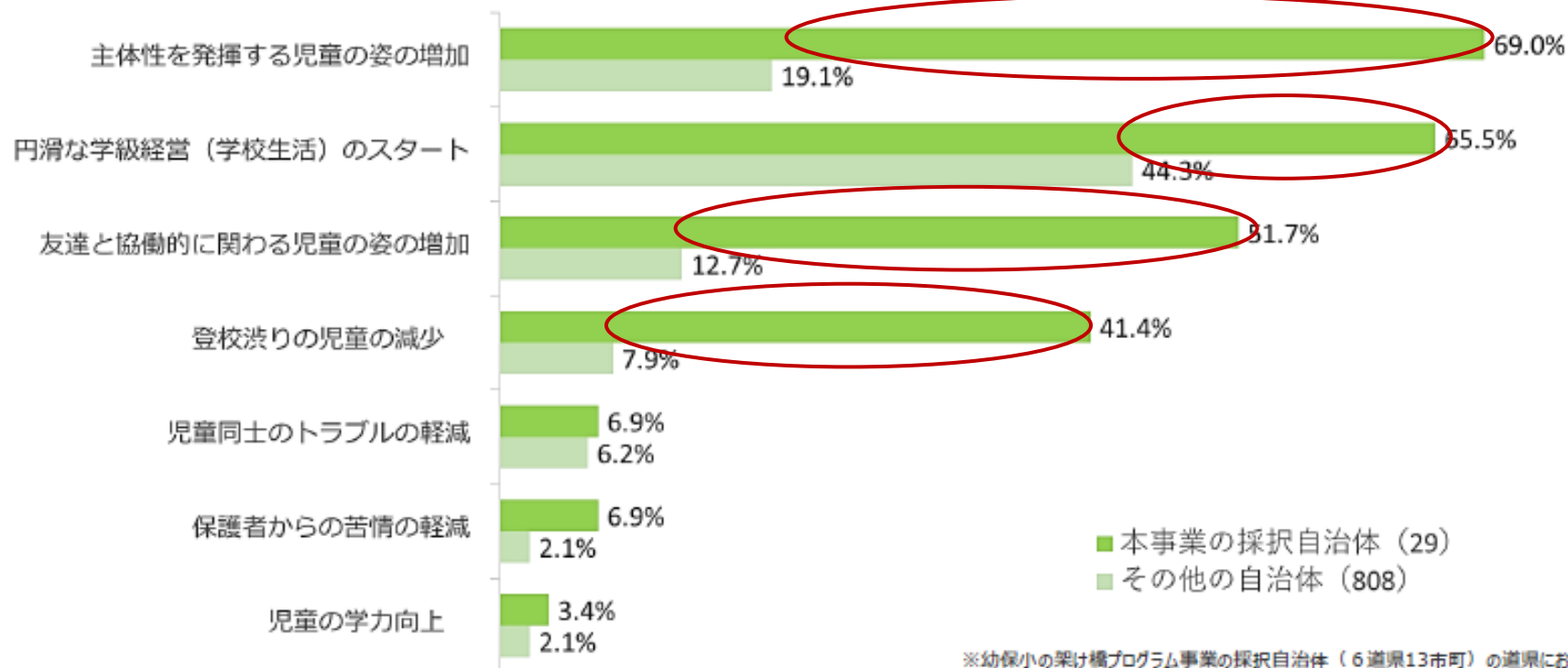
各幼児教育施設・小学校における架け橋期のカリキュラムを踏まえた教育課程編成・指導計画作成、実施、改善



幼保小の架け橋プログラムの成果 (幼保小の架け橋プログラム事業におけるアンケート調査結果より)

Q. 幼保小の接続に取り組んでいる中で、改善された小学校（学級）の課題があれば、当てはまるものを選択してください。
(当てはまるものを全て選択)

【改善された小学校の課題（令和5年度）】

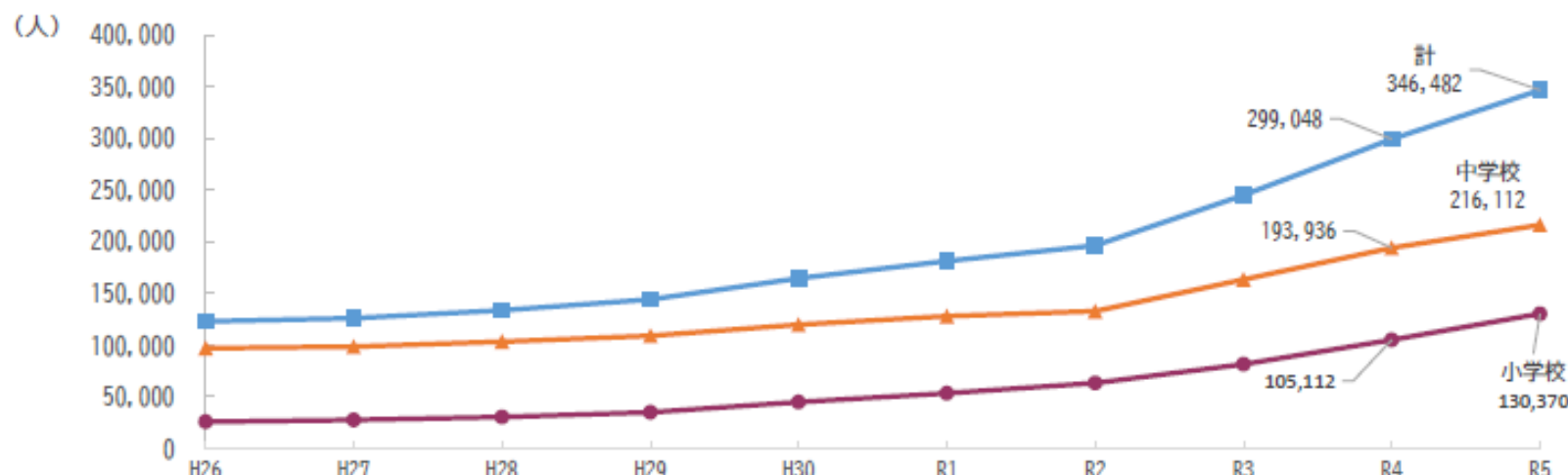


※幼保小の架け橋プログラム事業の採択自治体（6道県13市町）の道県においては、道県の回答及び連携市町からの回答を「採択自治体」として集計している。

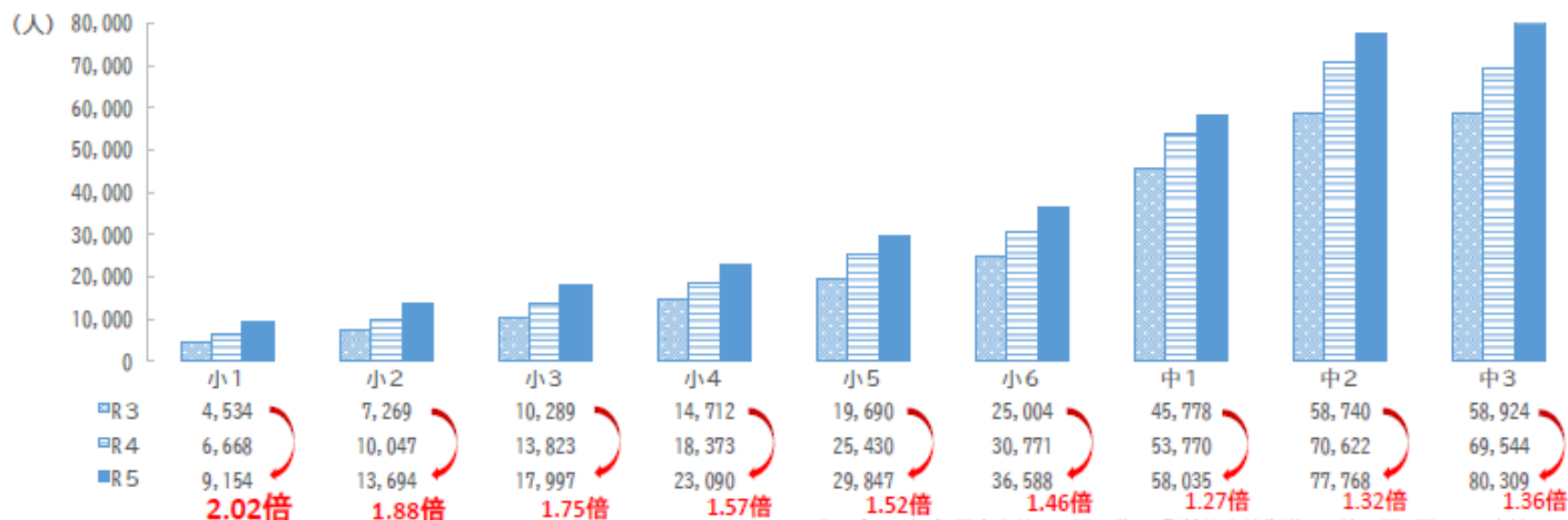
不登校の状況について

- ・小・中学校における不登校児童生徒数は約34万6千人(過去最多)
- ・全学年で前年度と比較して増加しているが、近年、**小学校低学年の増加率が大きくなっている。**

小・中学校それぞれの不登校児童生徒数の推移



学年別不登校児童生徒数



(出典) 令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

◆ 幼保小の接続について

OECD

Starting Strong

Reducing Inequalities by Investing
in Early Childhood Education and Care



○社会的な不平等を軽減し、幼児教育・保育のメリットが長期にわたって持続するようにするには、子どもと親のための他の社会サービスや保健サービスとの連携、賢明な資金調達とガバナンスなど、部門横断的なアプローチが必要。

○その一つとして、幼児教育・保育とその後の学校の様々な段階における接続を改善することが、教育的アプローチの継続性をサポートし、それを子どもの年齢に適応させるためにも、必要である。

○例えば、日本では幼児教育と小学校教育の円滑な接続の改善を図るための「幼保小の架け橋プログラム」が実施され、このプログラムに参加した地域からは、小学校において、子どもたちの幼児教育での経験を意識し、遊びや生活経験とのつながりを意識した指導をするようになった、と報告されている。また、登校渋りの児童の減少といった報告もされている。

幼保小の接続の改善のポイント

	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位

初等教育資料2023年11月号・幼児教育課

自覚的な学びへ（入学当初）

幼児教育と小学校教育が
つながるって
どういうこと？

小学校
教育

入学当初（4月）の 実践事例

▶ 滋賀県 湖南市立三雲小学校

安心して学校生活を始めるための「スタートカリキュラム」の一つとして、教室の場所・ものの使い方や学校のルールを探究的に学ぶ学校探検の事例

小学校入学当初のこの時期に、
幼児期の経験を生かして、ここを意識した!!

入学当初は幼児期とできるだけ近い環境を意識しながら、「安心感」をもてるようにすること。

「今までに見たことある?」「園でやったことある?」など幼児期の経験を子供から引き出しながら授業を進めること。

先生が学習内容を一方的に教えるのではなく、子供の「(気づき)」や「(疑問)」を学校探検という具体的な活動を通して解決できるようにすること。

子供の生活リズムや集中する時間、意欲の高まりを大切に、2時間続きの学習活動を位置付けるなどの時間配分の工夫をすること。

START

▶ もっと友達のことを知りたい!

自分の好きなものを紹介したり、学校で楽しみなことを話したりしながら、友達同士で自然と打ち解けていく



先生の思い・関わり

入学時は「安心感」を大切にして、一人ずつ前に出て発言するのではなく、園でなじみのあるサークルタイム形式で行います。

▶ どこを探検しようかな…

「学校にはガイコツがいるんだって!」「楽器がいっぱいあるんだって!」入学前から気になっていた疑問を伝え合う



先生の思い・関わり

「園にはどのような場所があったかな?」「園と比べてみて違うかな?」など、子供たちの園での経験を引き出しながら、思いや願いを生かしていきます。

▶ 探検で疑問を解決!

探検で発見したこと、不思議に思ったことを伝え合い、再び探検しながら、解決していく



先生の思い・関わり

発見や不思議を共有することで、新たな気づきや疑問が生まれ、探検を重ねながら解決していきます。

▶ ○○を探検したい!

たくさん出てきた疑問や気づきから「ぼくは…」「私は…」と一人一人の思いや願いの実現に向けて、行きたい場所へ探検に出かけていく



先生の思い・関わり

子供一人一人の思いや願いの実現に向けて、学校を探検するという具体的な活動を通して解決できるようにしていきます。

▶ もっともっと探検したい!

音楽室を探検していたら、終了のチャイムがなってしまい「もっと見たかったな」「次の時間でも、また音楽室を見てみようか」とつぶやいている



先生の思い・関わり

子供のつぶやきや思いなどを、全体で共有するなどして、次の活動の「めあて」としていきます。

▶ 友達に伝えたい!
絵でかいてみたい!

学校探検で見つけたものをかき出して、地図に貼り、「名前が分からないけれど、こんなものがあってよ!」「こんな形をしていたよ!」とまとめて整理していく



グループ協議②

幼児教育と小学校教育の 円滑な接続の推進

- (1) 各校での状況について
- (2) 幼児教育と小学校教育の
円滑な接続を進めていく上での
課題とその対応策

- ・司会は番号が1番目に若い方。
- ・発表は番号が4番目に若い方。
 - ・全体共有での発表は2分間
(お声かけしたグループのみ)

リフレクション

幼児教育施設との円滑な接続の推進のために、まずやろうと思うことは？

生活科の学習で、
これから大切にしたいことは？

など、

本研修で変容したこと、
心が動いたことを自由に話しましょう。